

保護者のみなさまのご質問に お答えします。

学校の現場の方から、保護者としてどのように考え、どのように子どもたちに接したらよいのかを伺いました。



家庭内で大切なのは、日頃から子どもとのコミュニケーションを深めることです。

「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「行ってきます」——こういった日常的な挨拶が最も大事であると提唱しています。高校生のうちから大人との会話に慣れることは、将来を力強く、自立して生きていくための鍵となります。

お答えくださる方

女子栄養大学常任理事 染谷 忠彦さん

プロフィール

国際教養大学大学入学試験委員会委員、高等学校的評議員等兼務。現在は、進路指導勉強会、保護者会、学校経営セミナー等の講演活動も精力的に行っている。先駆的な入試改革と斬新な広報活動を展開。国際教養大学開学に際してはアドバイザーとして準備段階から関わる。

Q 子どもの進路選びに、保護者は関わるべきでしょうか？

A 子どもは進路決定にあたり誰に相談するかというと、最後に保護者と先生が一番多いのです。よく「自分の好きにしなさい」「したいことをしなさい」と言う保護者もいますが、そうした言葉に対して子どもは“突き放されている”“自分に関心がない”と思ってしまいます。思春期の子育てに大切なのは、「進路」と一緒に考えること。ただし、保護者はあくまでも相談役です。最後の決定は、子どもに任せましょう。他人が決めると何か問題があったときにその人の責任にしてしまいます。社会に出れば難題は自分で解決しなければなりません。今から、物事の決断ができるように促していきましょう。

Q 大学を選ぶときに、注意することは何ですか？

A 子どもはそれぞれ学力が違います。一般的には少しでも難易度の高い大学がいいと思うがちですが、自分の好きな分野で自分の力に合った大学を選ぶべきです。受験校が決まつたら、実際の授業の様子や、図書館・学食・ラウンジなどにいる学生の雰囲気を自分の目で確かめに行ってみてください。学校のパンフレットを見たり、オープンキャンパスに参加したりするだけでは気づかなかつた部分が見えてくるはずです。一番大切なのは、学生が静かに勉強しているなど、教育環境がしっかりとしていることです。

Q 保護者もオープンキャンパスや学校説明会に参加すべきですか？

A 保護者が子どもにアドバイスをするためには、正確な教育現場の認識が必要です。現在の教育現場は保護者が進路選択をした時代と大きく変わっていますから、直接その状況を確かめることは大切なことです。学校を訪ねる場合にお薦めしたいのは、親子一緒に出かけて学校に入ってからは別々に行動する方法。一緒に行動すると、どうしても一方の見方や考えに偏ってしまいがちになります。帰りに待ち合わせて、それぞれの見てきたこと、感じたことを話し合うと、違う視点から検討することができます。

Q 進路相談会にも行ったほうがよいでしょうか？

A 進路相談会は、多様な情報を入手できるチャンスなので、ぜひ参加してください。しかし、残念ながら保護者の方たちは、資料コーナーに駆け寄るなど、資料を集めることに気が向いているようです。せっかく多くの学校が参加しているのですから、時間が許すかぎり各校のコーナーに座り、話を聞きましょう。子どもが希望する分野、大学だけではなく、他分野、他の学校の話を聞いてください。5校も聞けば、現在の教育現場の全体像がつかむことができ、ちょっとしたスペシャリストになるはずです。

Q 子どもと意見が違う場合は、どうしたらわかつてもらえますか？

A “子どもの考えは違う”と思っても、まずは子どもの意見を尊重すべきです。いきなり否定して、親の意見を押しつけてはいけません。我慢が大切です。そんなときこそ、保護者として、大人として、子どもを受け入れる姿勢をもちましょう。一度、十分に受け入れて、その後で「自分はこう考える」と親の考え方を話すべきです。子どもとのコミュニケーションはそこから始まります。

Q 受験に向けて、普段から保護者ができることはありますか？

A 受験には、本人の力量だけではなく保護者（家庭）のバックアップが欠かせません。責任があると言ってもいいくらいです。たとえば、推薦入試の判定基準となる出欠状況や、面接で試験官である大人と話す際の態度には、保護者や家庭の状況が自然に映し出されるのです。一般入試でも、朝起きて夜寝る、食事を3食摂るというしっかりとした「生活リズム」の子どもは、そうではない子どもより得点が高い傾向にあるといわれています。

また、保護者とのコミュニケーションを通じて、子どもたちは大人としっかり会話できる人間へと成長していきます。この能力が身につけば、受験だけでなく後の就職活動も順調に突破することができます。適切なコミュニケーションと、規則正しく健康な生活づくりを心がけてください。

Q 昨今の経済状況の悪化にはどう対応したらよいでしょうか？

A 進学するために必要な費用と支払い時期を早めに把握し、計画を立てることが大切です。例えば推薦入試の場合は実施時期が早いため、支払い時期もそれだけ早くなります。資金不足で進学を断念することのないよう、日頃から節約することを心がけてください。また、学校に支払うお金は入学金と学費だけではありません。実習費や教材費など、数十万円プラスして考えておいた方がよいでしょう。

日本学生支援機構奨学金には高校生のうちから予約できる制度があるほか、奨学金制度を持つ地方自治体も多くあります。奨学金が必要ならば、早いうちから情報を収集し、高校3年生になった時には申し込む準備をしてください。家庭において重要なのは、家の経済状況を子どもにも全て話すことです。大学卒業後、保護者は子どもの面倒を一切見ないこと、そして奨学金は全て子どもが返還することを約束しておきましょう。こうしたことは、子どもの「自立」を促すことにもつながります。